

## 令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 7	公益目的事業 16
主査名	岩尾詠一郎 専修大学教授	
研究テーマ	地域別に見た生活様式の変化が物流サービスに与える影響に関する研究	
<p>本研究の目的は、今後想定される生活様式の変化が、物流サービスのサービスの内容とサービス水準に与える影響を明らかにすることである。</p> <p>2020年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、新しい生活様式が求められた。新しい生活様式では、持ち帰りや出前、デリバリーの活用や通信販売の利用の推進などが求められている。このうち、持ち帰りや出前、デリバリーの活用では、従来の店舗での食事から、調理された食事の自宅などでの消費と消費場所が変わった。この消費場所の変化によって、新たに外食の店舗から自宅までの配送サービスが必要となる。同様に、通信販売の利用促進では、従来の消費者の店舗での購入から、自宅などでの発注と自宅などへの納品など、商品の発注場所と納品場所が変わる。この商品の発注場所と納品場所によって、新たに受発注の仕組みの構築とともに、自宅などへの配送サービスが必要となる。</p> <p>このような物流サービスを実施する際には、たとえば人口密度が高い都市で自宅までの配送を依頼した場合、即座に配送がおこなわれることがある。一方、人口密度が低い都市で自宅までの配送を依頼した場合、発送元（店舗等）から自宅までの配送距離が長くなれば配送時間が長くなる。また、配送する運転者が少なければ、即座に配送がおこなわれないこともある。</p> <p>このように、自宅まで配送するという同じ物流サービスの内容であっても、地域によってサービス水準が異なることも考えられる。同様に、生活様式も、地域の特徴（人口密度や世帯数など）によってその内容が異なることが考えられる。</p> <p>以上の問題意識にもとづき、本研究では、地域別（大都市、都市部、中山間地域）に今後想定される生活様式の特徴に応じた生活様式の変化が、物流サービスに与える影響を、物流サービスのサービス内容とサービス水準に焦点をあて、明らかにしていく。</p> <p>研究の方法は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 地域別（大都市、都市部、中山間地域）に今後想定される生活様式を示す。</li><li>(2) 今後想定される生活様式の変化内容などの特徴を明らかにする。</li><li>(3) 生活様式の変化が物流サービスのサービス内容とサービス水準に与える影響を地域別に示す。</li></ol>		